

レビュー戦略マニュアル

Ver1.0

チームK
2018/01/23

レビュー戦略マニュアルの提案

～ レビューの効率化を目指す ～

主査	: 中谷 一樹	TIS (株)
副主査	: 上田 裕之	(株) DTS
	: 原 佑貴子	日本アイ・ビー・エム (株)
アドバイザー	: 森崎 修司	名古屋大学
研究員	: 福田 立樹	(株) 日立製作所 情報・通信システム社 (発表者)
	: 荒木 秀一	(株) 日立ソリューションズ東日本
	: 石井 智絵子	伊藤忠テクノソリューションズ (株)
	: 大嶋 哲	サントリーシステムテクノロジー (株)
	: 佐野 忠	日本電気通信システム (株)
	: 新谷 和也	(株) インテック

みなさん、
今のレビューに満足していますか？

- レビューの目的が共有できていますか？
- レビュー対象は明確になっていますか？
- どういう観点で見るか決まっていますか？
- いつ誰が見るのか決まっていますか？
- どうなればレビューを完了にしていますか？

プロジェクトにとって、効率的で
意味のあるものになっているでしょうか？

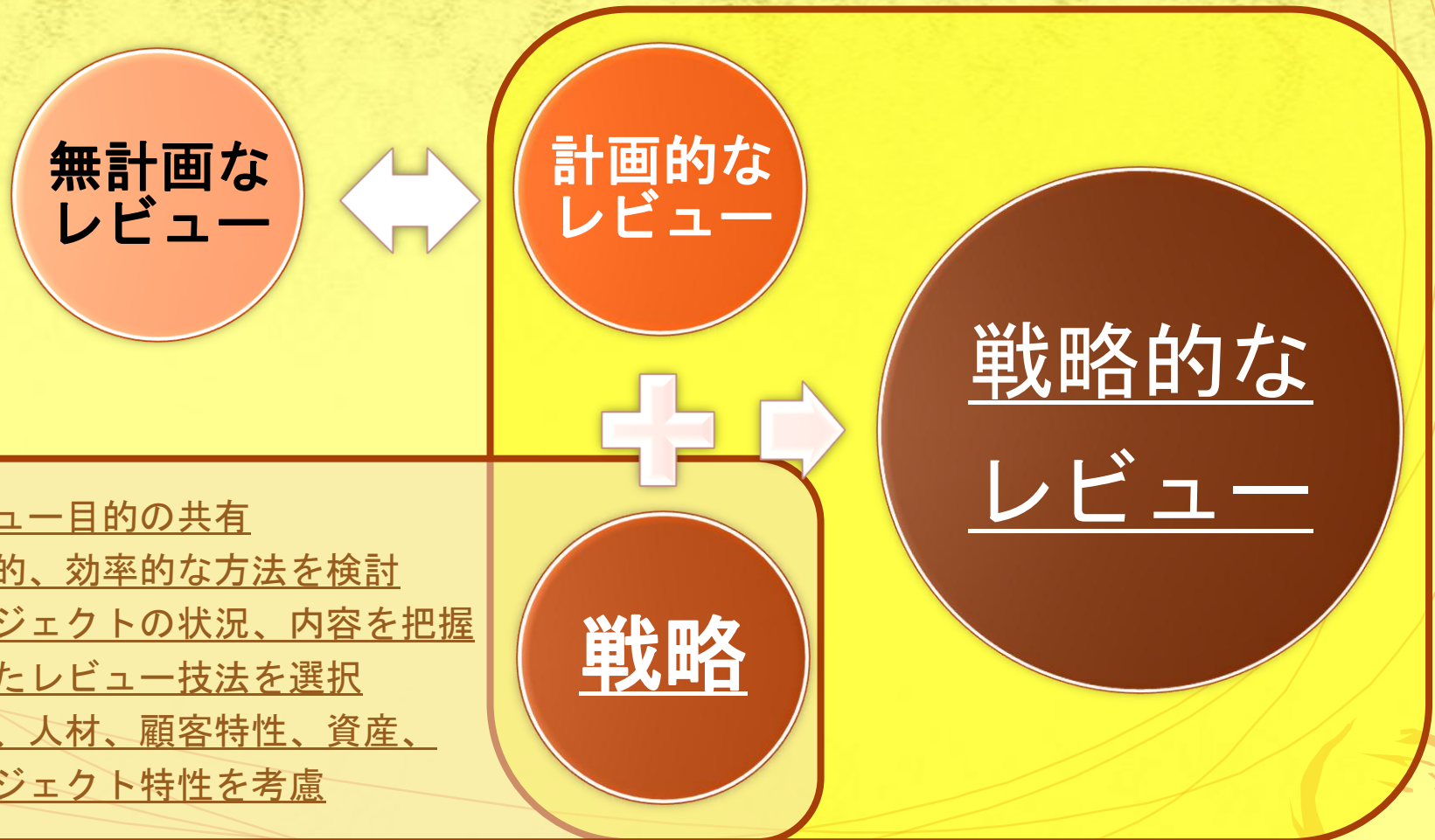
無計画な レビュー

- ・ スケジュールがない
- ・ 人が集まらない
- ・ 人によって観点が違う
- ・ その場の思い付きで指摘
- ・ 負荷大
- ・ 検出漏れ

計画的な レビュー

- ・ 誰がいつレビューする
- ・ どういう観点で見る
- ・ どのようにレビューする
- ・ 儀式的
- ・ 形式的
- ・ 効果が薄い

プロジェクトの状況、内容、特性を把握し、プロジェクト毎に戦略的なレビューを実施する必要がある



書籍や過去の研究論文にも
「レビュー戦略の重要性」は提唱されている



しかし「レビュー戦略」について、
体系的に整理されたものはなかった



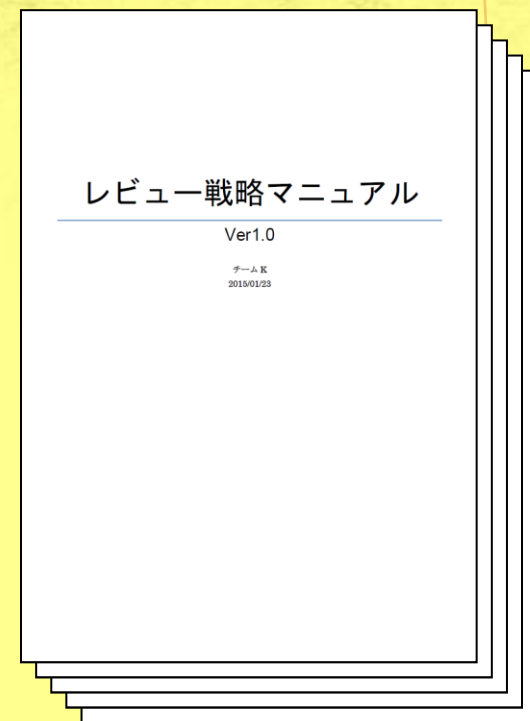
それなら自分達で作成しよう！
レビューにおける戦略の立案を定義し、
定義した戦略の立案方法を現場での活用を意識し、
マニュアルとしてまとめることにした

レビュー戦略マニュアルとは

レビューの効果を最大限に
発揮させることを目的として、
戦略の手法を、32ページの
マニュアルとして纏めたもの

研究員6名が作成に費やした
工数から計算すると

300万円の価値！



レビュー戦略の主な構成

レビューの戦略に必要なプロセスを定義し、
章毎にまとめている！

レビュー戦略の立案

計画

準備

实施

振り返り

[illegible]

工夫した点（特徴）

インプット/アウトプット

インプット/アウトプットを明確にし、プロセスに問題があった場合の特定が容易とするために記載

留意点

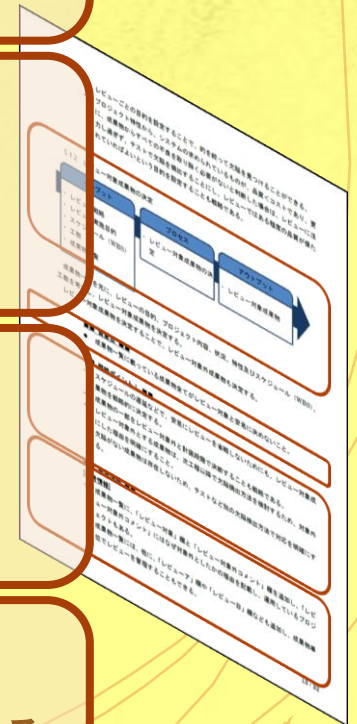
実用性を考えて、特に注意する必要がある点や事柄を記載

戦略のポイント

実用性を考えて、特に戦略的に考えるべきことを記載

参考文献

参考事例や過去の研究結果の論文及びそのプロセスに関わる書籍を記載

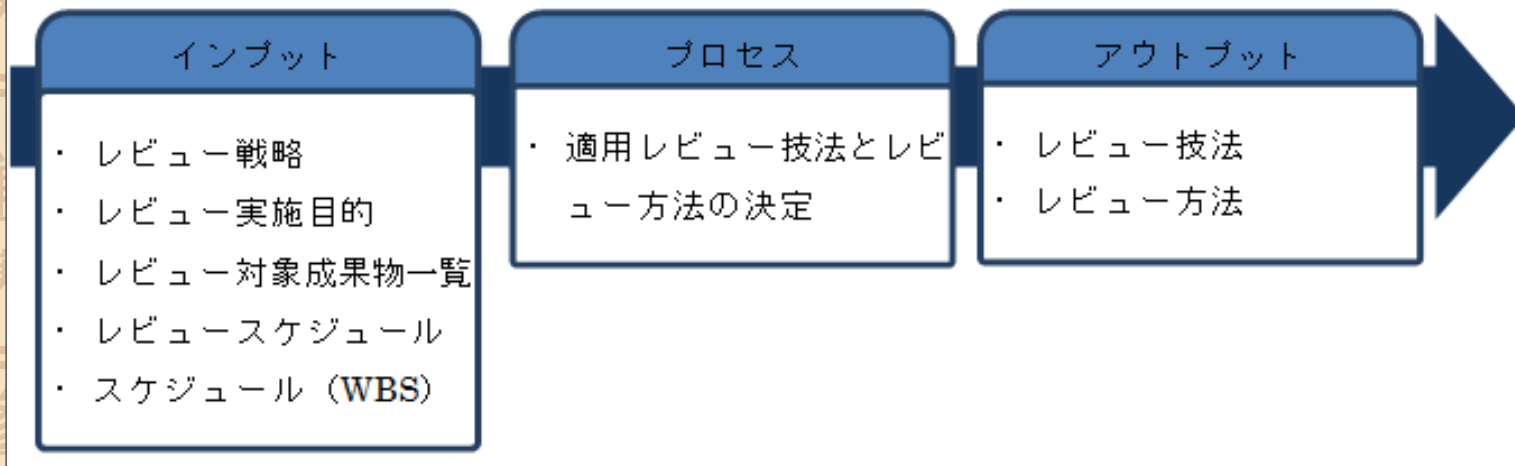


工夫した点（特徴）

インプット/アウトプット

インプット/アウトプットを明確にし、プロセスに問題があった場合の特定が容易とするために記載

5.1.6. 適用レビュー技法とレビュー方法の決定



参考事例や過去の研究結果の論文及びそのプロセスに関わる書籍を記載

工夫した点（特徴）

留意点

実用性を考えて、特に注意する必要がある点や事柄を記載

■ ■ 留意点 ■ ■

- レビュー技法には、公式なものから非公式なものまでいろいろあるが、プロセスにあったレビュー技法を適用すること。

<開発プロセスに合わせたレビュー技法の選択例>

開発プロセス	レビュー技法	レビュー内容
仕様書作成序盤	アジャイル インスペクション	書いた部分の体裁や記述方法をすり合わせる。 観点例: 誤った記述が複数ヶ所へ展開される前に 早期発見する。書いたところから確認する。
仕様書作成中盤	ウォークスルー	自信のないところを局所的に担当者同士ですり 合わせる。 観点例: インターフェイス定義など不安部位の確 認。短時間で該当部分を確認する。
仕様書作成終盤	インスペクション	全体を通して問題がないかを確認する。 観点例: 全体のスループットなど整合性を確認す る。

工夫した点（特徴）

戦略のポイント

実用性を考えて、特に戦略的に考えるべきことを記載

■■戦略ポイント！■■

- ✓ レビューに参加する人の役割を決めて、各自が役割を意識して臨むことで、効果的にレビューを進めることができる。

参加者の役割としては、以下のような役割がある。

特に、参加者の中で司会進行役を決め、レビューが円滑に進むようにする。

<レビュー時の役割>

役割	実施事項
司会進行役（モデレータ）	レビューをリードする 相乗効果を刺激する レビュー結果を報告する
読み手	記述を解釈して言い換えをする
検証者（レビューア）	仕様の欠陥や矛盾、懸念点を指摘する



工夫した点（特徴）

参考文献

参考事例や過去の研究結果の論文及びそのプロセスに関わる書籍を記載

留意点

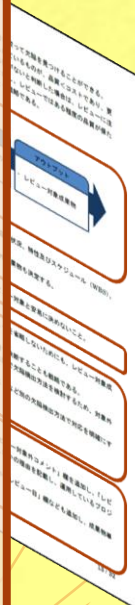
■■ 参考情報 ■■

【参考論文】

- ◇ 「ソフトウェア品質不安に対する心理的側面に着目した、レビュー計画作成技法の提案」 2010 年度 SQiP 研究会
- ◇ ISO/IEC/IEEE 29119-3 Software and system engineering –Software testing –Part3:Test documentation

参考文献

参考事例や過去の研究結果の論文及びそのプロセスに関わる書籍を記載

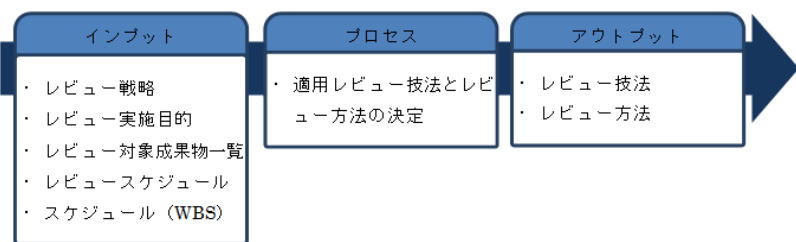


工夫した点（特徴）

インプット/アウトプット

インプット/アウトプットを明確にし、プロセスに問題があった場合の特定が容易とするために記載

5.1.6. 適用レビュー技法とレビュー方法の決定



留意点

実用性を考えて、特に注意する必要がある点や事柄を記載

■留意点■

- レビュー技法には、公式なものから非公式なものまでいろいろあるが、プロセスにあったレビュー技法を適用すること。

<開発プロセスに合わせたレビュー技法の選択例>

開発プロセス	レビュー技法	レビュー内容
仕様書作成序盤	アジャイル インスペクション	書いた部分の体裁や記述方法をすり合わせる。 観点例: 誤った記述が複数箇所へ展開される前に早期発見する。書いたところから確認する。
仕様書作成中盤	ウォークスルー	自信のないところを局所的に担当者同士ですり合わせる。 観点例: インターフェイス定義など不安部位の確認。短時間で該当部分を確認する。
仕様書作成終盤	インスペクション	全体を通して問題がないかを確認する。 観点例: 全体のスルーポイントなど整合性を確認する。

戦略のポイント

実用性を考えて、特に戦略的に考えるべきことを記載

■戦略ポイント！■

- ✓ レビューに参加する人の役割を決めて、各自が役割を意識して臨むことで、効果的にレビューを進めることができる。
参加者の役割としては、以下のような役割がある。
特に、参加者の中で司会進行役を決め、レビューが円滑に進むようにする。

<レビュー時の役割>

役割	実施事項
司会進行役（モデレータ）	レビューをリードする 相乗効果を刺激する レビュー結果を報告する
読み手	記述を解釈して言い換えをする
検証者（レビューア）	仕様の欠陥や矛盾、懸念点を指摘する

参考文献

参考事例や過去の研究結果の論文及びそのプロセスに関わる書籍を記載

■参考情報■

【参考論文】

- ◇ 「ソフトウェア品質不安に対する心理的側面に着目した、レビュー計画作成技法の提案」 2010 年度 SQiP 研究会
- ◇ ISO/IEC/IEEE 29119-3 Software and system engineering –Software testing –Part3:Test documentation

戦略の立て方 (プロジェクトへの適用方法)

6つのポイントから戦略を立てることを推奨！

□ コスト：

レビュー及びレビュー管理にかけられるコストがどれくらいなのか？

□ 品質：

レビューで重視する品質はどこなのか？

□ 人材：

レビューア及び設計者のスキル、体制上の弱さはあるか？

□ 顧客特性：

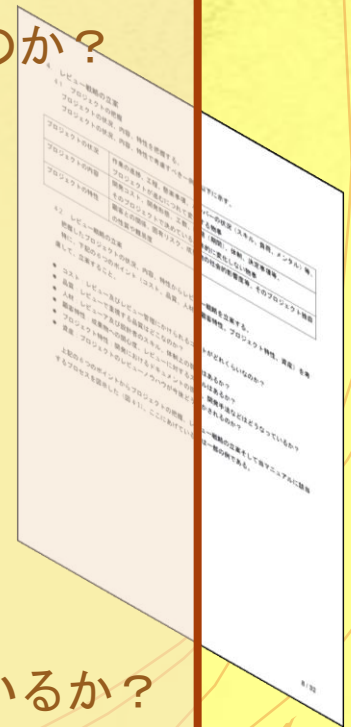
成果物への関心度、レビューに対するスキルはあるか？

□ プロジェクト特性：

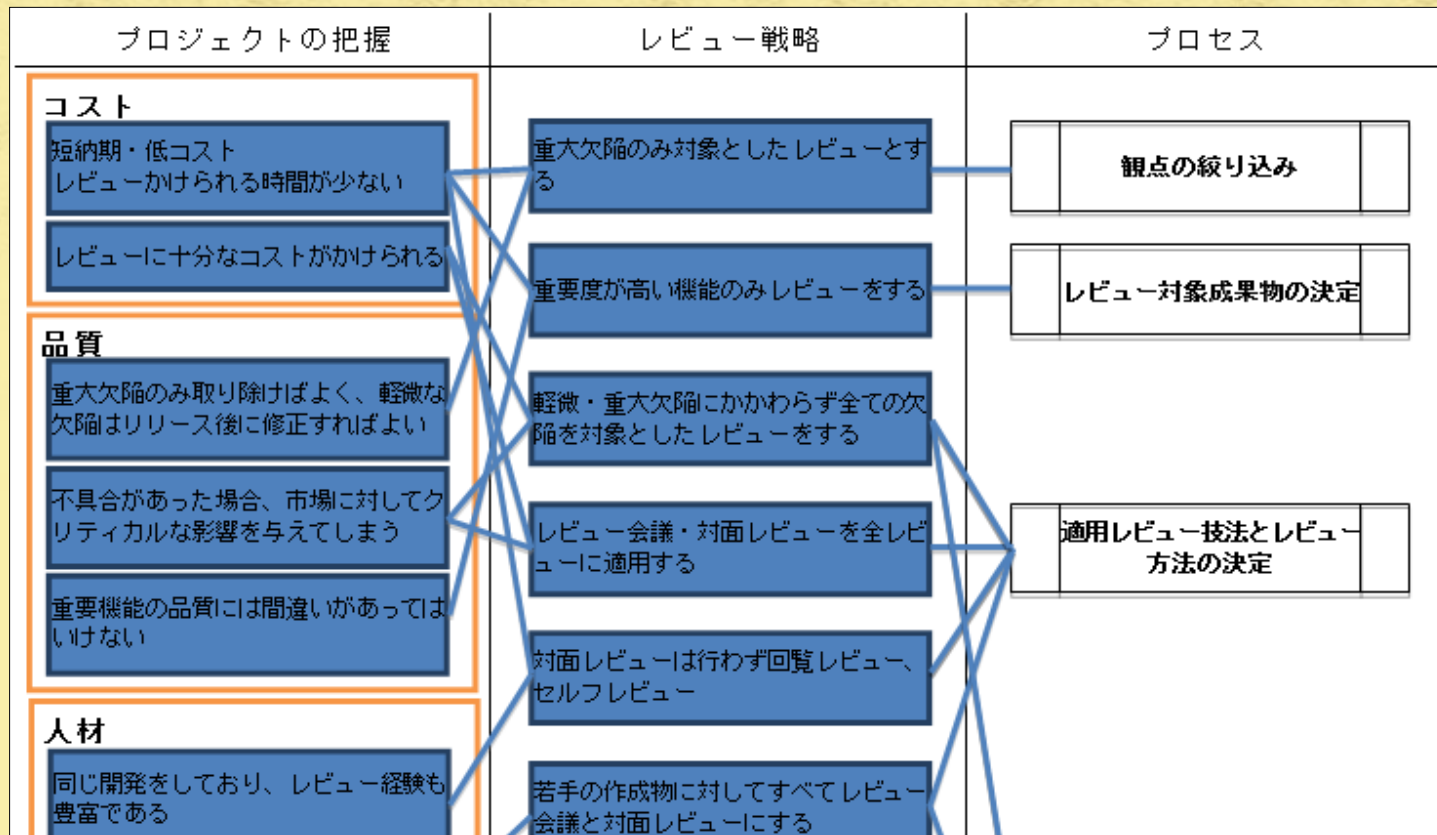
開発におけるドキュメントの扱い、開発手法などはどうなっているか？

□ 資産：

プロジェクトのレビューノウハウが今後どう生かされるのか？



戦略の立て方



戦略の立て方の例をいくつか掲載しているので
これを参考にプロジェクトに合った戦略を立てる

戦略の立て方

＜レビュー戦略の立案＞

コスト

- レビューにかけられるコストが少ない

低予算でシステムを作成する必要があり、レビューにかけられるコストが少ない

戦略

- 手戻りコストの大きい処理を対象とする

すべての機能をレビュー対象とするのではなく、後工程で不良が見つかった場合の手戻りコストが大きい処理を対象とする

プロセス

- 観点の絞込み

レビュー観点を絞り込むことによって、摘出しなければならない不良を明確化する

レビュー観点の絞込み

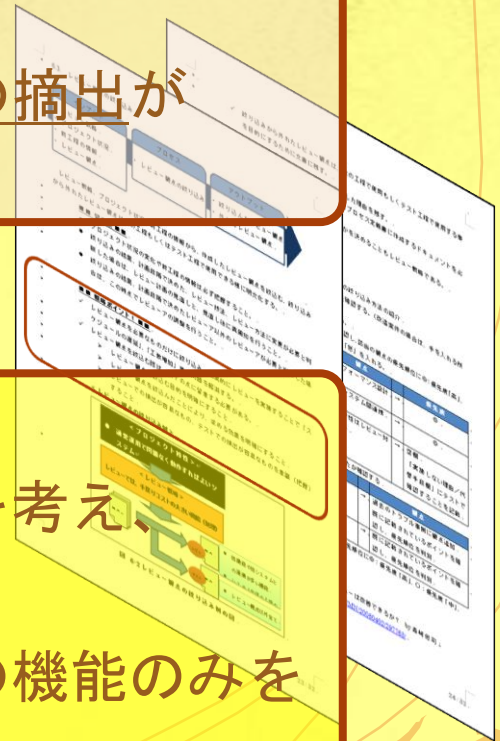
【戦略のポイント】

- ◆ レビュー観点を絞込む目的を明確にすること
- ◆ レビュー観点を絞込んだことにより、求める効果を明確にすること
- ◆ レビューでの摘出が容易なもの、テストでの摘出が容易なものを意識（把握）すること



【プロジェクトに合わせた戦略】

- ◆ レビューにおけるコストと効果のバランスを考え、レビュー観点を絞込む
- ◆ 手戻りコストの大きい、主要な機能、上流の機能のみをレビュー対象とする
- ◆ 画面系はレビュー対象外とし、テストの観点とする



戦略マニュアルの効果

- 本質でない指摘に費やす時間の削減
- レビュー出席者の意思統一
- レビューとテストのすみわけ
- レビュー対象成果物を絞ることで工数削減
- スケジュールを決めることにより遅延検知

すなわち、プロジェクトに合わせた
効率的なレビューを実施できる！

利用した人の声

- プロジェクト状況に応じて、どのようなレビューを行うべきか考える際の手助けになると 思います
- レビューの過程で自分の弱い部分が見えた場合、本マニュアルの該当する章を参照することで、そのレビュー過程の考え方を補うことが出来ると感じました
- 事前にレビュー観点とレビューのゴールを設定するのは大事だと感じました

すなわち、改善への気づきを
与えることが出来る！

最後に

無計画な
レビュー



計画的な
レビュー

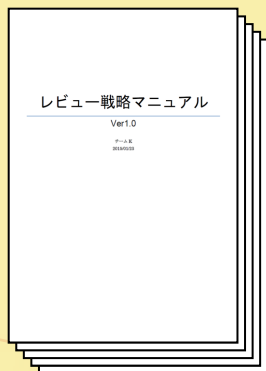


戦略的な
レビュー

戦略

レビュー戦略
マニュアルをぜひ
ご活用ください！

今なら、
無料でご
提供でき
ます！



プロジェクトの状況、内容、特性を
把握し、プロジェクト毎に戦略的な
レビューを実施しましょう！